

一宮市立浅井中学校いじめ防止基本方針

1 いじめの防止についての基本的な考え方

本校では、『いのち』を尊び、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい生徒を育成する。」を教育目標に定め、「明確な目標を持ち、対話を中心として、主体的に学ぶ生徒」「自他を大切に思いやり、『共に生きること』を大切にする心豊かな生徒」「何事にも粘り強く、最後までやりぬき、『生きる喜び』を感得できる生徒」の育成をめざして、教育活動に取り組んでいる。いじめの防止については、この本校の教育目標実現のために全校体制で取り組まなければならないと考えている。

そもそもいじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、どの生徒もいじめの被害者にも加害者にもなりうるという認識が必要である。

これらの基本的な考えを基に、生徒の尊厳を守り、いじめに向かわせないために、教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的にいじめに対応していく。また、いじめの防止等の対策は、学校、家庭、地域住民その他の関係機関の連携の下に進めていく。

学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場ではなくてはならない。そこで、生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、いじめの未然防止に取り組むとともに、いじめのささいな兆候や懸念、生徒からの訴えを、特定の教職員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

「いじめ・不登校対策委員会」は校長、教頭、主幹教諭、教務主任、校務主任、学年主任、生徒指導主事、いじめ等対策主任、不登校対策主任、養護教諭等で構成し、必要に応じて、スクールカウンセラー（臨床心理士）、一宮市SSW、心の教室相談員等を加える。

(1) 「いじめ防止対策組織」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの実施と進捗状況の確認

- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な対応を図る。
- ・教職員による取組評価・保護者による学校評価アンケートを行い、「いじめ・不登校対策委員会」及び「学校運営協議会」において、学校におけるいじめ防止対策を検証し、改善策を検討していく。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・心のアンケートや一日観察日、個人面談等（教育相談）の結果の集約、分析、対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。
- ・教育相談についての理論や研修を修め、カウンセリングマインドを持って生徒に対応することができるよう、全教職員の力量向上をめざす。

ウ 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・随時、学校だよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取り組み状況を発信する。
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用して、地域全体のいじめ防止意識の向上に努める。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の生徒の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。
- ・不登校生徒や教室に入れない生徒に対しては、教室復帰のための校内適応指導教室（スカイルーム）を設置し、適応指導教室担当者を中心に全教職員に対するサポート体制確立に努める。

3 いじめの防止等に関する具体的な取り組み

（1）いじめの未然防止の取組

ア 生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。

- ・心のアンケートやQ-U（3学年とも実施）、個人面談を実施して、学級経営を見直し、より良い学級づくりに努める。
- ・申し送りデータ等を作成し、いじめの状況やその後の生徒同士の関わりについて把握できるように努める。

イ 学習マナーの確立に努め、よく分かる授業を展開し、個々に自己肯定感と充実感を味わわせる。

ウ 日常の生徒観察に努め、校内の「報告・連絡・相談」体制を確立するとともに、いじめが心配される事案があった場合にはいじめの可能性を考え、周り又は全員にいじめは許されない行為であることを呼びかけ、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。

エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成とコミュニケーション能力の向上に取り組むことにより、いじめの未然防止に努める。

オ 集会等でいじめ未然防止の講話を行う。

カ 生徒の話し合い活動などの主体的な活動を年間計画に位置づけて実施し、いじめ防止の意識を高める。

キ 情報モラル教育を推進し、生徒がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、「ネット上のいじめ」の被害者、加害者とならないよう継続的に指導する。

ク 道徳の授業を通して「利他共生」の教育を推進し、互いを認め合い共に喜び合える学級づくりを基盤として、多様な考え方を知り、理解させる。

ケ 生徒を主体とした生徒会やピア・サポート活動に取り組み、互いに支え合える生徒を育成する。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 日頃の生徒のささいな変化や気になる行為に関して、情報を共有し、組織的に見守り・支援できる全校体制を整える。
- イ 心のアンケート（月1回）、個人面談の定期的な実施（各学期1回）や、一日観察日（月1回）を通して、生徒の小さなサインを見逃さないように努める。
- ウ 過去にいじめ被害にあった生徒に対し、継続的な見守りを行う。
- エ 地域の方々や保護者から情報を得るように努める。
- オ 生徒が相談しやすい環境を整える。
 - ・教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努める。
 - ・生活ノートや私たちの道徳の活用、相談箱等を設置し、生徒が担任や担任以外の職員にも相談できるようにする。
 - ・県及び市のスクールカウンセラー、心の教室相談員の相談日を全家庭に紹介（配付）する。
 - ・電話相談窓口の一覧を全家庭に紹介（配付）する。
- カ いじめ対策に関する校内研修を実施したり、教育委員会等が主催する講演会や事例研究会に関係職員を参加させたりして、生徒理解を深め、いじめ未然防止や対応についての教職員の資質向上に努める。

(3) いじめに対する措置

- ア 2（1）エより、いじめの発見・通報を受けたら、正確な事実の把握に努め、それに基づき、「いじめ・不登校対策委員会」を中心に組織的な対応の徹底を図る。
- イ 被害生徒の尊厳を守ることを最優先に考えて対応する。
- ウ 加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーや、警察署、児童相談センター等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- オ 「ネット上のいじめ」への対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応するとともに、関係諸機関との連携を図る。
- (3) 調査結果については、被害生徒、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取り組みに対する検証・見直し

- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取り組みについては、PDC Aサイクルで見直し、実効性のある取り組みとなるよう努める。
- (2) いじめに関する項目を盛り込んだ、教職員による取組評価や保護者による学校評価アンケートを実施し、「いじめ・不登校対策委員会」及び「学校運営協議会」において、いじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

- (1) 「いじめ対策ハンドブック」「小・中学生の自殺予防～いじめ自殺をめぐって～」(一宮市教育委員会・一宮市いじめ対策推進委員会作成)を参考にいじめ対策に取り組む。
- (2) 「学校いじめ防止基本方針」を学校ホームページに掲載する。
- (3) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】

